

2022 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [横芝光町立横芝中学校] 担当教諭名 [押尾 貴昭] (生徒会 7名・美術部 5名)

相手国・地域 [ベリーズ]

海外学校名 [St. Catherine Academy] 担当教諭名 [Hiroko Franklin]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	生徒会活動	アートマイル国際協働学習	20
	部活動	アートマイル国際協働学習	15

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	SDGs Goal 5 男女平等を実現しよう
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	「男女の性差によって差別されることのない未来を描こう」 男女の格差による問題は近年日本でも明るみになっている。今現在起きている男女不平等の実情と男女平等が実現された明るい未来を創造していきたい。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> 男女格差について知り、自分に何ができるか課題意識をもって学習することができた。また、実際に国を超えて学習を進めていくうえで、文化の違いや宗教の問題などについて考えを深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業時数として学習を進められなかったため、考えを深める時間が十分に確保できなかった。 生徒会本部役員と美術部で役割を分担して学習を進めたため、制作の際に共通理解に時間がかかった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> 生徒自身が問題視していなかった「男女格差」に対して調べ学習を進めていくことで、知らなかったことを知る楽しさや、疑問に対して討議する楽しさを体験することができた。また、世界に対して視野を広げ、海の向こう側にも同じ中学生がいるということを認識することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> アートマイル学習を通じて、生徒たちにグローバルな視点で物事を見たり、考えたりするように意識させることが、以前より多くなった。教師自身にとっても、国際的に考える「きっかけ」を多く探すようになり、多角的な考え方をもち指導に携わるようになった。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
調べ学習 テーマ学習	7月 ～ 9月	・アートマイル活動の目的、相手国・相手校について知る。 ・日本の男女格差について調べる。	・活動の目的や相手国・相手校を理解した。まだ実感がない様子が見られる。 ・男女格差を身近に感じていなかったため、男女の在り方など考え方を改めることができた。	生徒会活動
共有 相手と意見交換	10月	・Zoomミーティングの実施 ・日本とベリーズの男女平等の意識の違いを考え、議論する。	・Zoomミーティングを実施することにより、国を超えたプロジェクトを行う実感がでてきた。英語で表現する難しさを学び、国際交流の架け橋になった。	生徒会活動
融合 メッセージ作成	11月	・相手校と、世界に向けて発信するメッセージについて話し合い、デザイン案を討議する。	・メッセージについて議論し、デザインや構成について話し合った。改めて主題の難しさを感じると共に、強い達成感を感じる生徒もいた。	生徒会活動 部活動
創造 壁画制作	12月 1月	・相手校と合意したテーマとデザインをもとに、制作作業に入る。	・実際に壁画制作を進めていくうちに、共同制作の楽しさを感じるようになった。	生徒会活動 部活動
評価 振り返り 自己評価	2月 3月	・完成された作品を鑑賞し、自己評価を行う。	・完成した壁画が返ってこない中での振り返りであったが、真剣に取り組むことができた。相手校からの壁画制作中の写真を鑑賞し、国際交流の良さを感じる事ができた。	生徒会活動 部活動

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価（5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった）

学習目標・つきたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化・自文化を理解する力	5	Zoomでの自己紹介やミーティングを通じ、日本とベリーズとの男女感覚の差を感じる事ができた。異文化の違いに驚くと同時に、同じ地球上の学校であることを実感した反応が見られた。
主体的に考え行動する力	4	限られた時間で、日本の男女格差による不平等や現状を細かく調べ、工夫してパワーポイントにまとめることができた。Zoomでのミーティングの際も、どのようにしたら相手に伝わるか言葉を考え、対話をする様子であった。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	3	男女不平等について調べ学習を進めていたが、調べた内容に対し疑問を持たず、すぐ納得してしまうことが多かった。学習内容に多角的に考えていく力をもつ必要があると感じた。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	4	Zoomミーティングを通じて直接対話し、相手国の伝えたいことを一生懸命読みとり、自分の考えとの比較をすることができた。異国の言葉を自ら表現し、考えを伝えようとする様子が見られた。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	3	壁画に伝えたいメッセージや壁画の題を考える前に、イラストの創造に着手してしまった。それにより、どのような思いを乗せるか考えを制限する形となり、メッセージ決定に時間がかかった。